



排気量 10 リットル未満クラス 9 連覇を果たした菅原照仁ドライバーの日野レンジャー



日野チームスガワラのメンバーとゴール地に駆けつけたサポーター達

日野レンジャーがダカールラリー2018でクラス9連覇

連続27回完走、菅原義正氏連続35回参戦の3つの記録更新を達成。トラック部門の総合順位も前回を上回る6位に…

■菅原照仁氏がクラス9連覇を達成。父義正氏は連続出場の世界記録を更新

日野自動車(株)は、2018年1月6日～20日にペルー、ボリビア、アルゼンチンの3カ国に渡って開催された、「ダカールラリー2018」のトラック部門に日野レンジャー2台で参戦。菅原照仁ドライバー(45歳)が、同部門の排気量10リットル未満クラスで優勝し、チーム史上最多となるクラス9連覇を達成した。また、排気量が10リットルを超えるエンジンを搭載した大型トラックが上位を占める中、中型トラックである日野レンジャーの機動性、および菅原照仁氏のドライビングテクニックと

豊富なラリーの経験を活かし、前回の8位を上回る6位に食い込んだ。

ダカールラリーは、冒険心に溢れたフランス人の青年ティエリー・サビーヌによって1978年に創始されている。創生期には、フランスの首都パリをスタートしてセネガルの首都ダカールにゴールすることから、パリ・ダカールラリー(通称パリダカ)と呼ばれていたが、主戦場となるアフリカの政情不安により、2008年の大会中止をはさんで2009年より南米大陸に舞台を移し、現在はダカールラリーと称されている。

競技者は、2週間をかけて約1万kmにわたる砂漠や砂丘、土漠、荒野などの道なき道を走り続け、総



合タイムを競う。カテゴリーは、2輪、クワッド(4輪バギー)、4輪、UTV(2017年大会より新設)、トラックの5部門で、完走率が5割に満たないことから「世界一過酷なラリー」と言われている。毎年約50カ国から300台を超える競技車両が集まる世界的に注目される一大イベントである。

今回の2018年ラリーを振り返り菅原照仁ドライバーは、「コース設定の厳しさは予想以上で、多くのチームがトラブルを抱えていました。しかし、今回の順位は相手のミスや幸運ではなく、それだけ車両が進化した成果だと思います。自分にとって20回目のダカールラリーで、このような結果を出すことが出来て良かった。現在のポテンシャルを出し切



1月4日：サスペンションストロークを計測される1号車



1月4日：重量チェックのため軸重を測られる2号車



1月7日：リマをスタート(1号車：菅原義正／羽村勝美組)



1月14日：ボリビアの高地を舞台に後半戦がスタート(2号車：菅原照仁／高橋貢組)



1月15日：アシスタントトラックのドライバーとサルタ行きの出発時間を打合せ



1月15日：未明にサルタに到着した日野レンジャー。終盤戦に向けて気合が入る



1月8日：順調に初日を終えた「ダカールの鉄人」菅原義正氏



1月10日：本格的な砂丘ステージ(2号車：菅原照仁／高橋貢組)



1月10日：過酷なコースが続くペルーステージ(2号車：菅原照仁／高橋貢組)



1月17日：アルゼンチンの山間地を快走(2号車：菅原照仁／高橋貢組)



1月17日：右前輪をバースさせたままゴールした2号車



1月18日：2号車の点検を進めるメカニックたち



1月11日：難関のペルー最終ステージ(2号車：菅原照仁／高橋貢組)



1月11日：ノートラブルでSSを終えてアレキバに着いた日野レンジャー2号車



1月13日：ラ・パスのビバークで整備される日野レンジャー



1月18日：最大の難所フィアンバラ(2号車：菅原照仁／高橋貢組)



1月19日：サン・ファン・ファン・ファンで日野レンジャーを迎えるメカニックたち



1月20日：ラリーはゴール地コルドバに到着(2号車：菅原照仁／高橋貢組)

れたと思いますし、満足度は高いです」とコメントしている。

また、「ダカールの鉄人」こと菅原義正ドライバー(76歳)は、1983年に当時のパリ・ダカールラリーの二輪部門に初参戦して以来、同ラリー史上最多となる連続35回出場の世界記録を更新している。今回はラリー序盤のステージ2において、車両が砂丘でスタックし無念のリタイヤとなったが、菅原義正ドライバーは、「常々、ダカールラリーは『人生の学校』だと言ってきましたが、ラリーの神様がまだ僕を卒業させてくれないようです。気持ちを切り替えて、次回改めて頑張ります。今回はコース設定も難しい中、照仁はよく頑張ったと思います」と語り、

息子の成績を称えるとともに、自身は早くも次回ラリーへの参戦に意欲を燃やしている。

さらに今大会では、日野が1991年に日本の商用車メーカーとして初めて同ラリーに参戦して以来、連続27回目の完走も達成した。2018年1月20日に、アルゼンチンのコルドバで行われたゴールセレモニーに駆け付けた日野の市橋保彦代表取締役会長は、「チームのメンバーから今回のラリーの様子を聞いて、改めてダカールラリーが『世界一過酷』であることを実感しました。そのようなラリーに、日野が27回も参戦を続けてきたことや、照仁さんがクラス9連覇を達成しただけでなく、中型トラックの日野レンジャーで海外の大型トラックと互角に

戦って総合順位で6位に入ったことを、日本のトラックメーカーとして誇りに思います。これからも菅原義正さん、照仁さんと共に『チーム日野』一丸となって挑戦を続けていきたい」と述べた。

■リトルモンスターと称される“HINO ダカールラリーマシン”の優れたポテンシャル

世界に誇る耐久性を持つ日野レンジャーをベースにしたHINOダカールラリー用マシンは、中型車でありながら排気量が倍近くある大型モンスタートラックと熾烈な戦いを繰り広げるその勇姿から“リトルモンスター”の異名でライバルたちに

恐れられている。HINO車の持つポテンシャルを最大限に引き出し過酷なレースへと挑む高性能トラックだ。

ダカールラリー2018に出場した2台の日野レンジャーは、2017年大会で実績を積んだ車両をもとに改良。菅原義正氏の駆る1号車のサスペンションは、ダカールラリーに参戦当初から採用していた信頼性の高いマルチリーフスプリングに変更され、菅原照仁氏の駆る2号車は、トランスファーを高出力対応モデルに変更し、リアのみLSD(リミテッド・スリップ・ディファレンシャル)式のディファレンシャルギヤに変更。さらに、フレームとリアボデーに補強を加え、ハイスピード



息子、照仁氏のクラス連覇を称える“ダカールの鉄人”菅原義正氏。義正氏はダカールラリー史上最多となる連続 35 回出場の世界記録を更新した



優れたドライビングテクニックにより、前回の 8 位を上回る 6 位に食い込んだ菅原照仁ドライバーをねぎらう市橋保彦日野自動車会長

での耐久性を向上させている。チームは、耐久・信頼性重視の 1 号車、一方 2 号車は高出力・ハイスピード重視とし、2 台の役割を明確にした。夏季トレーニングとして、2 号車でシルクウェイラリー、1 号車でラリーモンゴリアに参戦し、確かな手応えを得た日野チームスガワラはダカールラリー 2018 に挑んだ。

【エンジン】

日野自動車のフラッグシップエンジンともいえる A09C エンジンがダカールラリーにデビューして 5 年目となる 2018 年大会では、高出力化すると耐久性が犠牲になるという二律背反の厳しい条件の中で、2 号車のエンジンのさらなる出力向上に挑戦した。ターボ特性の見直しとエンジンの吸気効率を向上させたカムシャフトとの組み合わせにより、ターボ回転数を押さえつつ、たくさんの空気をエンジンに送り込み、平地だけではなくダカール

ラリー特有の高地ステージでも高い信頼性を確保しながらも低回転から高回転までの全域で高出力を発揮できるよう改良され、最高出力は 700ps の大台に達している。



ゴールセレモニーのパレードに参加した日野チームスガワラ



ゴールセレモニーでパレードを行う 2 号車とメカニックたち

【サスペンション】

日野チームスガワラの 2 台の日野レンジャーは、全く異なるサスペンション方式が採用された。1 号車は往年のマルチリーフ式に変更、2 号車は

新世代のテーパリーフ式スプリングをチューニング。一見、真逆の特性を狙ったサスペンション構造だが、ドライバーの走行特性と相まって、凹凸の激しい悪路をしなやかに吸収していることが夏季トレーニングで確かめられた。さらに 2 号車は今回初めて、旋回した時のリアアクスルのステア角(舵角)がゼロになるように改良されたことで、コーナリング中に急なステアリング操作を行っても車両の挙動が安定し、コーナリングスピードの向上に貢献させている。



日野はこれからも、世界最高峰のラリーへの挑戦を続けることで、世界中のユーザーやモータースポーツファンと感動を分かち合い、活動を通じて培ったチャレンジスピリットと技術力を活かして、ユーザーに役立つ商品・サービスを提供し続けて行くとしている。